

豊前市ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界各地で発生している異常気象は、二酸化炭素の増加による地球温暖化が原因とされています。気候変動はもはや疑いの余地はなく、「気候危機」として、これまでに経験のない豪雨や台風等による被害、農作物や生態系への影響など自治体にとってもリスクとなっています。

2015年に日本政府を含む全世界の国々により合意されたパリ協定は、世界全体の平均気温の上昇を産業革命前よりも2°C高い水準未満に抑えることを目標として設定するとともに、1.5°C高い水準未満に抑制するための努力を継続することを定めています。

2018年には気候変動に関する政府間パネル（IPCC）による「1.5°C特別報告書」が発表され、1.5°Cに抑えることが賢明であり、そのためには2050年までに世界全体の温室効果ガス（GHG）排出量実質ゼロを達成することが必要であると提唱されました。

国は2020年10月「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指すことを表明し、2021年には「2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける」という目標を発表しました。

本市は、海、山の自然豊かな環境に恵まれた歴史ある地域として先人から受け継がれてきました。この豊かで美しい自然環境と住みよいまちを次世代に引き継ぐため、今こそ私たち一人ひとりが地球環境に強い危機感を持ち、将来にわたって脱炭素への取組を強化していく必要があります。

よって、豊前市は、ここに「2050年までに二酸化炭素実質排出ゼロ」を目指し、市民、事業者とともに、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取組を進めていくことを宣言します。

令和4年6月6日

豊前市長

後藤元秀